

令和3年度上市町総合計画及びまち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 議事録

日 時 令和3年7月30日（金）午後2時から午後3時30分まで

場 所 上市町文化研修センター 3階大会議室

出席者 伊東委員、井上委員、碓井委員、奥井委員、小柴委員、佐野委員、清水委員、
瀬川委員、田中委員、野越委員、平井潤委員、平井敏委員、堀田委員、村井委員、
安本委員、山崎委員、湯上委員、若林委員

欠席者 島田委員、三輪委員

事務局 小竹副町長、牧田教育長、中村総務課長、碓井企画課長、廣田財務課長、
永田町民課長、柳瀬福祉課主幹、酒井産業課長、玉井建設課長、土開会計管理者、
小池議会事務局長、神谷上市消防署長、黒田かみいち総合病院事務局長、
平井教育委員会事務局長

【庶務】企画課企画班：川口課長代理、成瀬係長、盛一主任

傍聴者 1名（報道関係者）

- 次 第
- 1 開会
 - 2 あいさつ（上市町副町長）
 - 3 会長及び副会長の選任
 - 4 審議
 - (1) 第7次総合計画及び第1期総合戦略の実績について
 - (2) 第8次総合計画及び第2期総合戦略に関する報告について
 - (3) 審議委員から町への意見・要望等
 - 5 その他
 - 6 閉会

資 料 【当日配付】

- ・出席者名簿
- ・座席表
- ・資料2 第8次上市町総合計画の周知広報の状況
- ・資料3 令和2年度国勢調査（人口速報集計）での上市町人口の状況
- ・ご意見等連絡用紙

【事前配付】

- ・資料1 第7次上市町総合計画及び上市町まち・ひと・しごと創生総合戦略 実績報告書

議事等

1 開会、あいさつ、会長及び副会長の選任

司会者の企画課長が開会を宣言するとともに、当審議会の委員の委嘱についての説明を行った。なお、所属団体の役員交代により昨年度から変更のあった委員3名の紹介があった。

変更のあった委員は次のとおり。

- ・ 上市町商工会青年部長 伊東委員（第2号委員）
- ・ 上市町観光協会会長 井上委員（第2号委員）
- ・ 上市町働く婦人の家友の会会長 佐野委員（第2号委員）

その後副町長のあいさつがあり、第8次総合計画及び第2期総合戦略が今年の3月に無事完成したことに対する謝辞を述べた。また今後の計画の実現に向け、引き続きのご支援を賜るようお願いするとともに、本日の会議について、その趣旨や大まかな内容を述べた。

司会者が、会長の選任について意見を募ったが特段なかったため、上市町公民館連絡協議会会長の山崎委員に、昨年度に引き続き会長を再任するよう出席委員に了解を求め、了承された。また、審議会条例第5条第4項に基づき、山崎会長から副会長の指名があり、上市町区長協議会会長の村井委員が副会長に再任された。なお、(審議会条例)第6条第1項に基づき、山崎会長が議長となって、これ以降の議事を進行した。

2 審議事項(1) 第7次総合計画及び第1期総合戦略の実績について

事務局は、配付した資料1に基づき、第7次総合計画及び第1期総合戦略の最終年度である令和2年度の数値を基に、実績報告を行った。

議長は、以上の説明についての質疑を委員に確認した。

<委員からの意見>

委員 特定健診の受診率について、新型コロナにより令和2年度は受診出来ない期間もあり伸びなかったのだと思うが、令和3年度についてもその可能性があるのではないかと思う。健診期間を延ばす事は出来なかったのか。令和2年度は12月くらいで健診が終了している。これを年度内まで延ばすことは出来なかったか。総合病院のドックも予約するのが非常に難しかった。もう少しゆとりを持たす事は出来なかったか。

対応については先手を打っていてももらわないといけない。それこそ翌年度に持ち越すなどの対応は。

町民課長 新型コロナの発表があつてからなかなかドックを始められず、特に受診券の発送準備に時間がかかった。再度の感染拡大で延長も難しかった。またヘルスポイントも行ったが、こちらもなかなか出来ない状態であった。翌年度に持ち越すことは考えておらず、出来ればコロナの終息を願うばかりである。

委員 資料の最終ページに達成率が出ていたが、「経済力」の達成率が100%を上回っていたのはよかった。ただ「安心力」はC評価が多く、今後どういった対策をしていけばCがBやAになるかを考えていかなければならない。

移住定住を進める中で、子育て世帯に町に来ていただくためには周りのサポートをどういった形でやっていくかが大切である。先日の地域活性化フォーラムでグループ討議をした際、県外から来た母親方が言うには、周りのサポート体制があれば3人でも4人でも子供が欲しいと思っているそうだ。町ぐるみで子育て世帯をサポートする体制が必要である。

委員 山手の森林組合は種地区の方と一緒に仕事をしているのだが、今年はイノシシが少

ないと感じている。ただ山の奥に行くとかかなり多くのイノシシがいるため、対策はしっかりとやっていきたいと思っている。

委員 今すぐ取り組むべき課題は、少子化対策である。その大前提として、男女共同参画の視点が大切である。婚活支援も重要で、すでに取り組みを始めているのはありがたいことだと思っている。女性が子供を安心して産み育て、そして働き続けることのできる環境づくりは早急に取り組むべきものである。また町としても町民学園や生涯学習の数値が落ち込むといった結果も出ているが、あらゆる世代への手当が肝心。多様性の求められる社会づくり、ひいては差別や偏見を超える大事なものである。ぜひとも社会教育等においてそういった認識、差別等を取り除く後押しを町としてもお願いしたい。

また、女性が活躍できるための制度の充実を図ることも大切である。出産・育児・介護で働くことを諦める方がいる。男女ともに1人1人が自分の望む形で働き続けることが出来るよう支援することが必要。そのためにも男性も育児休業を取り、キャリア形成において性別で不公平感を感じる事のない仕組みづくり（保育所の充実や家事サービスなど。）が求められており、町にも後押しをお願いしたい。

今が変わるタイミングである。毎日の暮らしがよいものとなっていくためにも、総合計画をますます浸透させて、町民1人1人が自分事と捉えることが大切である。

3 審議事項(2) 第8次総合計画及び第2期総合戦略に関する報告について

事務局は、配付した資料2、3に基づき、第8次上市町総合計画の周知広報の状況、及び令和2年度国勢調査（速報）での町の人口の状況について報告を行った。

議長は、以上の説明についての質疑を審議事項(3)の中で確認することとした。

4 審議事項(3) 審議委員から町への意見・要望等

議長は、以上の説明について委員に町への意見・要望の発言を求めた。

<委員からの意見>

委員 先日某企業で発生した事故を受けて、町の危機管理体制はどうなっていたか。

総務課長 警察から消防からの要請を受けて、防災無線で町民に対し情報提供を行った。

委員 防災無線について、もう少し本数を増やして配置することは出来ないのか。今の状態では全然聞こえない。防災無線は住民にとってとても大事なものである。例えば熊の情報についても、地区名だけ言うのではなく、もう少し細かい情報も流して欲しい。

総務課長 防災無線が聞きにくいといった点についてはよく住民の方からもご指摘いただくことではあるが、どうしてもマイクの指向性があり、方向を変えてとか反響を考えてゆっくり話すなど配慮しているが、防災無線の限界といったものも考えている。現在町には74基の子局があり、笠尻山にその基地局があるが、現時点で子局を増やしていくといったことは考えていない。また、聞き取れないといった地域へは受令機を配布して対応しているが、これを全戸配布するには大きな経費が掛かる。なお、聞き取れなかった時に472-1114へかけていただくと、最新の防災無線で流した情報が取得出来る。また、LINEを使って防

災情報を発信していこうということで、現在システム構築作業を行っており、今年度中にはその発信が出来る見込みである。1つずつではあるが、危機管理体制について改善を図っていきたいと考えている。

委員 安心力の項目が1番低かったということで、これはコロナの影響が1番大きいのではないかと思っている。今は、高齢者が外に出てコロナがまん延したらと思うと、出歩くことも非常に難しい。今年度にコロナが終息してくれればよいが、なかなかそれも厳しい状況なのではないかと思う。何とか皆様と協力してやっていけたらと考えている。

委員 今話を伺って、色んな課題があると再認識した。人口にしても減っているということが表を見て実感できた。減っていくことはある程度仕方ないことだと思うが、若い人が参画するようなものがあればよいのではないかと思った。その中で、資料2で大学との連携の取組みが書かれているが、これは今後も取組みとして続いていくものか。

川口課長代理 富山大学の取組みについては1年に1度副町長が出向いて講義を行っているが、学生の中に上市町を知らない人がたくさんいる。町の位置だけじゃなく町が取り組んでいることも知っていただきたいので、今後もこの取組みを継続して行っていきたいと考えている。富山福祉短期大学については本年1月に包括協定を結んでおり、今年も国際観光学科の学生が町の課題を自分たちで調べてその解決策を提案するという授業をしている。今月5日に役場で町長への発表の場を設けており、これも授業として組み入れていただいている。大学が射水市にあるということで学生はあまり上市町を知らない方が多いため、今後も学生たちとの関係を作っていきたいと考えている。

委員 その発表は見に行ったり、あるいは情報を得たりなど出来るのか。

川口課長代理 現時点では授業ということで町の関係者のみに周知しているが、CATVでも流れることとなっており、また、ぜひ見たいという方がいらっしゃれば企画課へ問合せしていただければ案内させていただきます。

委員 子育て世帯のサポート支援の充実ということで先ほど話があったが、施設に携わる立場で言えば、各保育園では十分な受け入れ態勢を整えて運営していると自負している。ただ出生数が昨年度62人であったと聞いて愕然としている。上市町は人口が19,000人台ではあるが、保育所が10か所、絵本室ゆめぼっけ、放課後児童クラブなど本当に充実していると思う。それなのに毎日新聞の出生欄を見ても上市町は本当に出ておらず寂しく思っている。当園でも子育て支援室を開いたりしているが、町外からの利用の方が多く、また広域入所として富山市や立山町から7名の利用がある。これは保護者が上市町にお勤めということもあるが、富山市や立山町の保育園に入れられないから、空いている上市町の保育園を利用されているという状況である。なので、これから町で子どもを産む方に対し、第2子は無料など町独自の若者を支える政策があれば、子育て世帯も増えていくのではないかと考えている。

また、先ほど話があった防災無線についてだが、当園では警察からのメールの方が届くのが早く、それを受けて保護者の方へメールをしたりした。町が防災のLINEを整備されるということで、LINEは届かないということがなくともよいと思う。

委員 色々努力していただいた結果良かったもの、足りなかったものがあると思うが、コロナの影響で思うようにならなかったものもたくさんあると思う。その中で、テレビや新聞、大学等でアピールなどし、本当に努力しているのだと思うが、上市町について若い方は知らないなど、富山県内でもどこの辺りにあるのかといった認知度が低いこともまた事実である。上市町は天気予報が東種であるため、「寒い」や「山」などのイメージを持たれやすい。なので、上市町をアピールしていくには、もっと分かりやすいキーワード、富山市に近いなどをアピールしていく必要があると思う。仕事柄建築関係の相談を受けるのだが、4月から滑川市に家を建てたいと言った方が11世帯、立山町は4世帯、舟橋村は3世帯、上市町は2世帯であった。上市町のうち、1世帯は元々上市町出身の方で、親の近くに家を建てたいということであったが、もう1世帯は、夫婦で音楽をやっていて現在富山市在住、子どもはおらずまた収入もあまり多くないため、土地が安く周りをあまり気にしなくても音楽が出来るということから、現在上市町を検討しているとのことであった。このことから、もっと上市町が富山市に近いといったことをアピールしていかないと、人口減少に歯止めがかからないのではないかと思う。また(令和2年の)出生数が62人としたことになると、教育委員会でも問題となっている学校再編といったことにもなってくる。人口が減って学校が減るとなった時に、親としてそのような地域に子どもを通わせようという選択肢に上がってこなくなる。また現在Aとなっている指標についても、人口が減少したらそれも持続できなくなるのではないかと思う。病院もなくなるかもしれないといった不安の中で、そのような町に定住しようといった選択肢が出てくるのかといったことも絶対あるので、ここで民と官が1つとなってプロジェクトを組んで、本気の人口対策を考えていかないと駄目な時期ではないか。今人口を増やさないとどこの市町村も厳しいが、その中で増えている市町村、工夫している市町村もある。そこを本気で議論していかなければならない。また先ほどの資料も結果だけを示してあるが、本当ならば誰がどういう過程で、どういう戦略を持って行ったのかその過程を知りたいところである。しかし今そこではなく人口をどうやって増やすか、どういった定住措置をしていくかということの本気で議論しなければ、数年後小学校や病院、スーパーがなくなっていったA評価のものがC、Dに下がるのではないかといった危惧をしている。今後、本気で人口を考える会が行われることを願うばかりである。

委員 商工会としては、コロナで何の事業も行えない中で、商店街も一生懸命やってはいるもののやはり目立たないということと、事業を行っていくための商工会の人数も減っているので、もっと増やしていかなければならないと思っている。また町や県から飲食店への助成金も行っているが、困っているのは飲食店だけではない。そういったところにもまんべんなく少額でも目を向けてくれればと思う。

資料については経済力が伸びているということに驚いている。達成状況を1つ1つ細かく見ていただきたいが、見直しが必要だと思ったのがP11にある「町内における求人数」である。求人数が3分の1まで減っているということは働く場所がないということになり、そういった町に定住するかといったことにもなって人口も増えないということにつながる。そういった面でも考えていただきたかった部分であった。また人間力については受診率や図書館などがCであったが、そういったところは若い方が参加していないということだと思う。若い方は会社で受診したり、乳がんについても自分の町で受けたくないから別のとこ

ろに行っているのではないかなど、そんなに心配はしていない。人口減少についてはどうやって行けばよいかということだが、商工会青年部でも空き家対策を行っているが、空き家の改装を町が助成しある程度住めるようにしてあればよいのではないかと思う。もちろん宣伝などは必要だが、空き家の提供もしっかり行っていけばよい。山登りに近いなどそういった特殊な部分もアピールしていけばよいと思う。また、保育所、小学校、中学校、高校へ町や事業所の方々が訪問し、上市町の良いところを色んな角度からアピールするなどして、小さい時期から上市町への想いをしっかり植え付けていって欲しい。

委員 安心安全といった視点から意見を言わせていただくと、古民家再生といった言葉をよく耳にするようになったが、そういった場所を再利用できないか。介護施設はまだ不足の状態ではないかと思われ、高齢者が行きたくても受け入れ先がないなど、そういった状況にあるのではないかと思っている。入院しても3ヶ月しかいることが出来ず、その後の受け入れ先もないといったことが現実にあるわけで、そういったことを考えると、町中に多くある古民家を利用して施設を運営していただける方を探すことなども考えていって欲しい。コロナが発生してから、サロンの開催もままならなくなっている。なるべく高齢者には家から表に出てほしいといったことが元々のサロンの狙いであるが、現実はなかなか呼びかけが出来ない状況である。早く開催できる状況になればよいと思っている。

舟橋村の人口はすごい上昇率である。こういったところは何をして人口が増えたのか検証しているとは思いますが、町でも取り入れられる部分は取り入れていけばよい。若い人がどんどん出ていくようでは町として面白くない。若い人が戻ってきてくれるような町づくりを期待している。おおかみこどもの番組（アニメ作品を活用した上市町の取組みを紹介する民放の番組）も見たが、そういったものも町として利用させてもらえたらよいのではないかと思う。

会議終了の予定時間となったため、議長は意見徴収を終了とし、発言できなかった意見については事務局の企画課へ提出するよう委員へ求めた。議長は円滑な議事の進行に協力をいただいた委員へ感謝の言葉を述べ、議事を終了し、進行を司会へ戻した。

5 その他、閉会

事務局は、本日の審議会での意見を踏まえ、今年度からの第8次総合計画及び第2期総合戦略の各事業を進めていくことを委員へ伝えた。また、来年度以降も引き続きこの審議会の体制で進捗管理を行う方針であることを説明し、全委員の了承を得た。

司会者は、以上をもって次第を終了した旨を述べ、閉会を宣言した。

(会議終了)